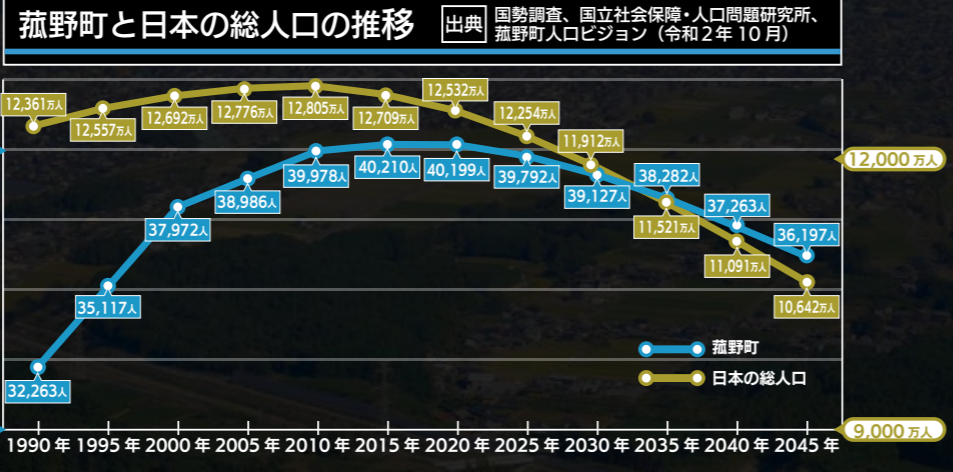


人口減少社会という現実に 対応する計画



人口減少社会の影響を念頭に

少子高齢化に伴う人口減少が課題となっている現代の日本。菰野町も例外ではなく、直近のデータでは町の総人口は2018年をピークに減少に転じています。一方で、2015年に75歳以上の人口は町の総人口の約12%でしたが、2045年には約20%に増加する推計となっています。65歳以上の人口も増加の一途をたどり、2045年には町の総人口の約36%を占めると推計されており、財政面も厳しい状況となるのが予想されます。

そのため、今回策定した「第6次菰野町総合計画」でも人口減少社会に対応していくことを念頭に置いて計画の方向性を定めており、人口が減少していく中でも菰野町がこれまでと同様に持続可能なまちであることを目指しています。加えて、「SDGs」や「Society5.0」といった全国的、世界的な目標なども視野に入れ、策定を進めてきました。



特集

私たちが主役

第6次菰野町総合計画 **START**

SDGs エスディージーズ

2015年の「国連・持続可能な開発サミット」で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015年から2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動などの課題に対して「誰一人取り残さない」持続可能な開発を目指し、17の目標が定められています。今回策定した総合計画の各項目でもSDGsの17の目標に適合する部分を示しており、関連して意識すべき目標の一つとして捉えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 1 貧困をなくそう
- 2 質の高いエネルギーをすべての人に
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 ジェンダー平等を促進しよう
- 5 安全な水とトイレを世界中に
- 6 持続可能な消費と生産を実現しよう
- 7 気候変動に具体的な対策を
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを保ちよう
- 15 陸の豊かさも保ちよう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう



Society 5.0

ソサイエティゴテンゼロ

狩猟社会 (Society1.0)、農耕社会 (Society2.0)、工業社会 (Society3.0)、情報社会 (Society4.0) に続く、日本政府が公式に推し進める5番目の新しい社会を指します。人工知能 (AI) やロボットによる自動走行車、ドローンなどの新技術を通じた社会の変革が人々に豊かさをもたらすとされています。これらの技術を最大限に活用し、経済発展と社会的課題の解決を両立することも、総合計画の中では大切な要素として位置づけています。

第6次菰野町総合計画策定検討委員会
委員長 平井 満さん

各世代の多くの方が関わって、今回の総合計画ができました。イラストや写真が並び、読みやすく見やすい大変よいものができあがったと思います。少子高齢社会になり、暗い気持ちになりがちですが、この総合計画が明るく健康的に暮らすための皆さんの指標にしてほしいですね。

総合計画って何!?

総合計画とは、長期的な展望のもと策定するまちづくり全体の方向性を示すものです。総合計画に基づいて、具体的な個別計画などを策定し、事業などが進められるため、総合計画は菰野町にとって進むべき方向を示す「羅針盤(らしんばん)」、「設計図」であると言えます。

菰野町をどのようなまちにしていくのか。そして、描くまちの将来像を実現するためにどんなことをすべきなのか。目指すべきまちの将来像やまちづくりの行動指針などを町民と行政が共有するために、令和3年度から令和13年度までの11年間の「第6次菰野町総合計画」を策定しました。策定検討委員会を中心として、町内の子どもから大人まで多くの方に参加いただき、策定することができた今回の総合計画。今月号では、総合計画策定に至るまでの経緯と皆さんの想いが込められた内容について特集したいと思います。